

学会印象記

第37回日本バイオマテリアル学会大会

2015年11月9日(月)～10日(火)

京都：京都テルサ

大会長：田畑泰彦(京都大学再生医科学研究所 生体材料学分野教授)

山本 雅哉

京都大学再生医科学研究所 生体材料学分野

第37回日本バイオマテリアル学会大会が、2015年11月9日～10日の2日間、京都テルサにおいて開催された。京都大学再生医科学研究所の田畑泰彦教授が大会長を務めた。本大会のメインテーマである“ますます広がるバイオマテリアル世界”に相応しく、材料研究者に加えて、医師、歯科医師、企業研究者など、様々な立場から過去最高となる940名が一堂に会し、大変盛会であった。さらに、経済産業省近畿経済産業局、ならびに日本学術会議から後援され、学術から産業化まで、幅広い内容について議論が交わされた。

プログラムもこれに合わせて構成され、材料科学、および臨床医学を代表して、国際科学振興財団・再生医工学バイオマテリアル研究所の赤池敏宏先生、および京都大学大学院医学研究科整形外科の松田秀一先生が、それぞれ特別講演を行われた。同様に、シンポジウムは、①グローバルに開発が進められている医療機器、②臨床応用されているバイオマテリアル、③バイオマテリアルを活用した3次元構築技術をテーマに開

催され、実用化が進められているバイオマテリアルを中心に議論された。また、“レギュレーション”と題した解説講座が行われ、再生医療や医療機器の実用化に必要な考え方などが紹介された。さらに、日本学術会議の後援による教育講演が行われ、バイオマテリアルに関する基礎知識を共有する目的での教科書出版を含めた、日本学術会議バイオマテリアル分科会の取り組みに続いて、高分子、金属、無機というバイオマテリアルの基盤となる材料科学の基礎に関する講演が行われた。一方、一般演題は、開発のステージに基づいて、基盤マテリアル、基盤技術、基礎臨床、産業基盤というカテゴリーで区分けされ、口頭発表176件、ポスター発表292件の合計468件であった。いずれも、バイオマテリアルが、医療機器のみならず、ドラッグデリバリーシステムや再生医療など、薬学や医学・歯学などの異分野との融合が進んでいることを実感した。

筆者は、本大会の準備委員長を務めさせていただく機会に恵まれた。日本バイオマテリアル学会の常任理



写真 大会運営関係者

SAMPLE